

ケビン・メア米務省日本部長の発言に対する抗議決議

去る3月7日の新聞報道によると、前在沖米総領事のケビン・メア米務省日本部長が、去年12月に米務省内で大学生らに行った講義で、「沖縄の人々は、ごまかしとゆすりの名人」、「沖縄の人たちはゴーヤーを栽培しているが怠惰で、他県の栽培量の方が多い」など、沖縄県民を愚弄・侮辱する許されざる発言をした。この発言に対して本町民をはじめ、沖縄県民は、激しい憤りを禁じえない。

普天間基地問題に関しても、「沖縄の人たちは普天間飛行場が世界で最も危険な飛行場だと主張するが、彼らはそれが本当のことではないと知っている」との発言は、2010年4月25日、9万人余の沖縄県民が結集して県民大会を開き、「普天間基地の早期閉鎖・返還、県内移設反対と国外・県外移設」を求めた県民の総意を踏みにじるものであり、断じて許せるものではない。

「在沖米軍基地はもともと田んぼの中にあっただが、今は沖縄の人が周囲に集まってきた」との発言は、土地の強制収奪による米軍基地建設の歴史的経緯を無視するものであり、戦後65年間、基地あるがゆえに起こる様々な事件・事故により、基地被害や人権侵害に苦しめられている県民を、愚弄・侮辱するものであり、沖縄県の民意に対する重大な挑戦である。

そもそも、普天間基地を世界一危険な基地と言ったのは、普天間基地を上空から視察した当時のラムズフェルド米国防長官であり、事実誤認も甚だしく同氏の暴言は、もはや看過することはできない。

よって、本町議会は、ケビン・メア米務省日本部長の沖縄県民を愚弄し侮辱した許し難い発言に対して、厳重に抗議し、発言撤回及び謝罪はもとより、解任を強く要求する。

以上、決議する。

2011年3月10日

沖縄県西原町議会

あて先 米国大統領、米務長官、駐日米国大使、米務省日本部長、在沖米総領事